

平成30年 2月

# 岩本拓 学位論文審査要旨

主 査 藤 原 義 之  
副主査 日 野 理 彦  
同 磯 本 一

## 主論文

Association of clinical features with human leukocyte antigen in Japanese patients with ulcerative colitis

(日本人の潰瘍性大腸炎患者におけるヒト白血球抗原と臨床的特徴の関連)

(著者：岩本拓、八島一夫、森尾慶子、上田直樹、池淵雄一郎、河口剛一郎、原田賢一、磯本一)

平成30年 Yonago Acta Medica 掲載予定

## 参考論文

1. 当院における大腸憩室出血に対する内視鏡的バンド結紮術の検討

(著者：岩本拓、河口剛一郎、森尾慶子、八島一夫、磯本一)

平成30年 日本高齢消化器病学会誌 掲載予定

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究はヒト白血球抗原（HLA）について、日本人潰瘍性大腸炎患者を対象とし、患者・臨床背景、治療法、検査データを比較検討したものである。その結果、HLA-B\*52とHLA-DRB1\*15が潰瘍性大腸炎に関与すること、HLA-B\*52陽性患者では腸管外症状、結腸切除歴の頻度が少なく、HLA-DRB1\*15陽性患者では白血球数が高い可能性が示唆された。本論文の内容は、潰瘍性大腸炎患者の感受性および臨床的特徴とHLAアレルの関係を示すものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。